

本セッションでは、宇都宮大学の地域活性化に向けた COC+事業推進を踏まえ、人材の受け手側地域企業3社の、獲得・定着・成長の取組と、送り手側の信州大学、芝浦工業大学及び本学の人材育成の取組紹介を受け、産学連携・協力による、受け手：地域企業が望む人材と、送り手：大学側の提供人材との乖離を埋める人材育成について、参加者と共に議論を共有し、深めた。

○獲得：(株)誠和（下野市） 専務取締役 新堀行男 氏

独自製品開発、海外最先端製品導入など高付加価値製品を世に出す施設園芸企業。奨学金など人材獲得制度を創設し、教育交流の社風の下、営業従事、米国語学研修、海外提携企業実習などの社内人材育成とともに、最先端トマト栽培施設で、顧客人材育成にも注力。

○定着：アクリーグ(株)（小山市） 取締役 磯山貴志 氏

独自開発 GIS 固定資産課税システムなど、地方公共団体の行政事務サポート事業を展開する企業。「好奇、変化、魅了」を経営理念に、社員一体で、若手の育成・定着を行っている。

○成長：桑名商事(株)（真岡市） 代表取締役社長 桑名 朗 氏

無電解めっき、高付加価値高潤滑/高耐摩耗機能等を提供する表面処理メーカー。「革新的な研究開発型企業を目指し、社会貢献人材を育成する」企業として、社員個々の各種資格取得、学会等参加、博士号取得等を奨励し、若手社員に成長の機会を与えている。

○信州大学の取り組み：

信州大学学術研究院 総合人間科学系 林 靖人 准教授

県内5キャンパスと各学部の特徴を活かした産学連携や地域貢献活動とともに、学問と社会の実践的繋がり体験の機会創生や、中小企業の人材獲得・育成課題に協働で取り組んでいる。

○芝浦工業大学の取り組み：

芝浦工業大学大学院理工学研究科 古川 修 特任教授

豊洲、芝浦、大宮キャンパスを中心に、毎年200件以上の受託・共同研究や体系的な課題解決型（PBL）授業を実施し、地域（世界）で活躍する理工系人材育成に向けたイノベーション創出と人材育成に取り組んでいる。

○宇都宮大学の取り組み：

宇都宮大学地域共生研究開発センター URA 室 倉山文男 RA

全学部を通して地域共生研究開発センターが産学（官・金）連携を推進し、特に、研究推進のための外部資金獲得活動が、大学の教育、社会貢献（産学連携等）にも寄与している。

組織間連携 2

座長 川崎一正／新潟大学

6月16日(金) 第2日目 D会場 (14:45~16:00)

組織間連携 2 のセッションでは、5 件の発表があった。神戸大学の湯本より、産学官連携まちづくりの新しい取り組みとして、都市建築環境のプログラミングという概念に基づいて、最近 15 年間に於いて実施した 6 つの事例が紹介された。続けて神戸大学の湯本より、産学官連携による新しい美術館への改修設計として、静岡県熱海市 M 美術館の改修とアートマネジメントを取り上げ、プログラミングにより、多主体異質連携を構築した事例が紹介された。北海道科学大学の木村より、札幌電気工事事業組合の企画の一部に北海道科学大学の電気電子工学科の研究室が協力し、両者の専門性を活かして社会貢献を行う、児童養護施設での「電 Lab で遊ぼう！」の実施内容について報告された。九州大学の松原より、離島である新潟県の粟島と沖縄県の竹富島を事例として、人口増を実現するコミュニティの生活習慣や風土、人と人との繋がりなどの地域文化についての調査結果が報告された。

北見工業大学の有田より、平成 28 年度に北見工業大学と北見市において遊休施設である旧北見競馬場を研究フィールドとして賃貸契約を締結し、これを今後、地域に生きる大学として、産業等への有効活用への可能性について、基礎調査を行った結果が報告された。このセッションでは、様々な切り口から、組織間連携を通じた事例の紹介があり、産学連携が多様化していく中で、今後、活動を行っていく上で参考になると考えている。

以上